

# せんだんのき

中原小学校 学校だより

令和5年 2月9日

TEL 42-2110

## 令和4年度 学校評価について

2月2日（木）に学校評議員会・学校関係者評価委員会を開催しました。

学校評価については、12月に実施しました生徒・保護者のみなさんのアンケート結果や学校の自己評価をもとに、年度当初に設定した目標を達成できたかどうかを示し、それについて各委員の皆さんからご意見をいただきとりまとめましたので、ご報告させていただきます。また、来年度から本校も学校運営協議会を設置するにあたり、学校運営協議会について説明をしました。

項目	自己評価	学校等関係者評価
成果 (強み)	感染症防止対策を講じた上、地域を題材にした学習活動に取り組み、公民館・まちづくり協議会・社会福祉協議会を窓口として豊富な人材を得ることができた。また、県や市の事業等も併せて活用して取り組むことができた。このような体験活動から探究活動へと展開する学習にとりくむことができた。また、基礎学力定着のため学習規律の確立や「直し」の徹底等に取り組んできた。	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校が地域と連携や協働することが、地域を活性化していくことにつながると考える。また、地域と連携した学習内容を工夫し、様々な人とのかかわる機会を得られた子どもたちの人格形成にとっても大切であり、さらなる充実を望む。</li><li>・人権教育において「学級の仲間と誰とでも仲良く楽しく過ごしている」ことがすべてではなく、一人ひとりの価値観の多様性を認めながら、教育の実践をすすめていかなければならない。</li></ul>
課題 (弱み)	基本的な生活習慣や学習習慣の定着について、学校からの啓発活動をすすめているが、大きな改善とは至っていない。特に、早寝・早起き・朝ごはんや家庭学習、家庭での読書習慣（家読）などについては、引き続き、保護者・家庭へのはたらきかけや意識づけにとりくんでいかなければならない。また、不登校等の課題を抱えた子どもたちの居場所作りや学力進路保障も含めて、学校としての対応を確立していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"><li>・大人（教師・保護者）の一挙一動が、子どもたちに与える影響が大きいことを再認識する必要がある。</li><li>・地域の課題解決に向けた題材から探究活動へと発展した学習を引き続きお願いしたい。</li><li>・基本的な生活習慣や学習習慣の定着にむけて、引き続き、保護者、家庭への働きかけや意識づけが必要である。</li></ul>
改善策	学校から保護者への情報発信方法を工夫し、学校だより、メール配信、タブレット、Web ページなどの活用によって、情報共有できる環境を今後もつくることで、保護者・家庭・地域との連携を図っていききたい。また、学力の定着をめざし、タブレットのドリル教材等を家庭学習等にも活用し、個々に応じた学習課題にとりくむことで、個別最適化を推進していく。今後もさらなる地域学習や体験学習を推進する上で人材発掘等をすすめていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"><li>・校区が子どもたちにとって居心地よい場所であって欲しいと思っている。学校からも地域に対して要望を発信し、保護者、家庭も含めて、地域が一体となって子どもたちに向かい合っていけたらと考えている。</li><li>・学校教育、家庭教育、社会教育の両立で教育が成り立っているが、近年、社会教育での学ぶ場が少なくなってきたように感じる。今後、保護者が家庭教育を学ぶ場が必要である。</li><li>・学校運営協議会を設置に向けて、地域学校協働活動との連携を図るコーディネーターの役割が重要である。</li></ul>
豊かな心と体	①児童 55% (85%)、保護者 62% (97%) の回答がある。また、相談できる友だちがいる児童が 59% (93%) いる。中学校区における9年間の人権教育カリキュラムを作成・実践ができた。引き続き、カリキュラムの再考をしていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"><li>・落ち着いた雰囲気の中で子どもたちが学校生活を送っていることがうかがえる。</li><li>・社会福祉協議会の協力のもと、福祉体験活動、出前授業等を通して、地域の課題でもある「高齢者にとって住みよいまちづくり」を考え、さらに学級での</li></ul>

	<p>②特別な支援が必要な児童についての指導計画を策定し、職員会議、研修会の場で情報共有を定期的におこなった。</p> <p>③児童 71%、保護者 82%、教職員 92%の肯定的な回答であるが、児童・保護者へのはたらきかけが必要である。</p>	<p>「なかまづくり」へと発展した探究学習がよかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを毎日家庭に持ち帰り、家庭学習でも活用できるようにすすめている。また、出席停止措置等の場合、教室と家庭を結ぶオンラインによる授業配信を継続して欲しい。</li> <li>・地域・保護者の協力を得て、通学路が改善された場所もあるが、依然として改善されない場所もあり、引き続き要望をしていく必要がある。</li> <li>・安全安心の向上にむけ、連絡メールシステムの活用を拡大することが望まれる。</li> <li>・コロナ禍中の状況下、地域との協働ができた。また、地域行事が再開し、多くの子どもたちが家族と一緒に参加している様子もうかがえた。</li> <li>・体験活動のなかで、子どもたちが主体的になって、企画立案した行事（焼き芋大会・異世代交流会）ができたことはたいへんよかった。</li> <li>・様々な人と関わる機会を得られ、自己肯定感の向上を図ることができたのではないか。</li> <li>・ボランティアによる読み聞かせを10月より再開した。子どもたちも大変楽しみにしていてくれて、ボランティアとしても、学校へきて、絵本の読み聞かせをすることが大変楽しみである。</li> </ul>
確かな学力	<p>①児童 58%（85%）、保護者 29%（75%）の回答がある。「能動的な聴き方」を大切にしたい授業改善を図る。</p> <p>②33%（100%）の回答となったが、「授業をわかりやすく工夫する」は 58%（100%）の回答があった。</p> <p>③タブレットがあらゆる場面で活用がすすめられている。家庭学習におけるドリル教材の計画的な活用を推進する。</p>	
安心安全	<p>①保護者 44%（89%）、教職員 46%（92%）の回答がある。今後、通学路等の変更も含め検討すべき課題がある。</p> <p>②地震・津波、火災、不審者を想定した避難訓練を3回実施した。一次避難は3分程度で完了をすることができた。</p>	
連携した教育	<p>①全学年が地域を題材にした学習活動が実施できた。</p> <p>②児童の活動を最大限に保障し、24回の体験学習、22回の校外学習、28回の出前授業、10回の児童会主催のたて割り班活動を実施した。また、縦割り班掃除を再開した。</p> <p>③後期より、読み聞かせボランティアの活用を再開させた。また、学年や委員会による読み聞かせ等も継続することで、今後も家読の啓発をしていきたい。</p>	

\*自己評価の（内数）は、肯定的な回答の割合です。

尚、学校運営協議会の設置にあたり、今年度をもって、学校評議員会・学校関係者評価委員会は、その責務を終えることとなります。

## 就学援助制度申請のお知らせ

就学援助申請手続きは、令和5年4月28日（金）までに申請をすると4月分から支給されます。5月以降の申請は、申請月分からの支給となります。また、継続をされる方も、**毎年申請が必要**です。

詳しくは、松阪市教育委員会からの「就学援助制度のお知らせ」（令和4年11月発行 黄色いちらし）をご覧ください。なお、申請用紙は、学校にもあります。分からないことがあれば、北部教育事務所・松阪市教育委員会、または、学校までお問い合わせください。



\*お知らせ\* 松阪市立中原小学校のホームページを公開しています。  
HPアドレスは、<https://www.ureshino-matsusaka.com/nakahara> です。  
「松阪市立中原小学校」で検索してください。